



ノーベル化学賞

日本人2人受賞

鈴木氏(北大)、根岸氏(米大)

有機化合物合成など研究

【ストックホルム共同】を、二つの有機化合物をスウェーデンの王立科学アカデミーは6日、2010年のノーベル化学賞を、二つの有機化合物を一つにつなげて新しい化学物質を作り出す合成技術の発展に貢献した鈴木章・北海道大名誉教授(80)と、根岸英一米パデュー大特別教授(75)ら3人に授与すると発表した。

益川敏英京都大名誉教授ら4人の日本人が受賞した08年以来、2年ぶりで、化学賞では下村脩・米ボストン大名誉教授に続き計7人に。ノーベル賞全体での受賞者は18人目となった。

もう1人は米国人研究者。有機化合物は炭素元素が鎖のようにつながった化学物質の総称で、例えばタンパク質や糖類もその一種。つながった形や長さ、炭素以外の元素の有無などによって性質が大きく異なる。

鈴木氏は、二つの有機化合物のつなげたい部分を加工したり、反応を促進する触媒としてパラジウムを加えたりすると、つなげたい形できつつきやすくなることを発見。簡単な合成方法を1979年に発表した。

鈴木氏が開発した手法は「鈴木カップリング」の名で、現在でも工業製品や医薬品の合成に広く利用されている。

授賞式は12月10日にストックホルムで開かれ、賞金1千万円(約1億2000万円)が贈られる。

歴任した。2004年に日本学士院賞を受賞。札幌市在住、80歳。(共同)



ノーベル化学賞の受賞が決まり、記者会見場に到着して関係者に迎えられる鈴木章・北海道大名誉教授(右)＝6日夜、札幌市北区の同大

鈴木 章氏(すずき・あきら)1930年9月12日、北海道むかわ町(旧鶴川町)生まれ。54年に北海道大理学部を卒業後、博士号を取得して59年に同学部助手。61年に工学部助教授。米パデュー大への約2年間の研究留学を経て、73年、北大工学部教授に就任した。94年に北大を退官後は北大名誉教授、岡山理科大教授、倉敷芸術科学大教授などを